

日刊薬業

2025年2月18日（火）

「製薬企業の即戦力育成を目指す」 大阪公立大・乾創薬科学研究所長

2025/2/17 21:23



創薬科学研究科長に就任予定の乾氏＝17日、大阪府内

大阪公立大・創薬科学研究所の乾隆所長は17日、2026年4月に設置予定の同大大学院「創薬科学研究科（仮称）」が目指す方向性を改めて説明した。国内他大学の薬学部は、大半が薬剤師資格取得に重点を置いていることを指摘。その上で、同科では、製薬企業で即戦力となるような人材育成を目指していくと強調した。

同科では、創薬に関する実践的な教育に加え、英語力の向上も図る。前期課程では、カリキュラムに「異分野創薬ラボ体験プログラム」や「創薬科学グローバルプレゼンテーション」を盛り込む予定。後期課程では、製薬企業への「創薬研究インターンシップ」や、海外の姉妹提携校で研さんを積む「グローバル合宿・在外研究体験」などが目玉となる見通しだ。

同科は、1専攻16研究室となる予定。乾氏によると、研究室数で見ると国内最大規模だ。入学定員は博士前期課程40人、博士後期課程8人で、このうち前期課程の30人ほどは内部生となる見込み。

●AI創薬人材育成のプログラムも

同大では20年4月から、学部生を対象に創薬科学副専攻を開始するなど、創薬人材の育成に力を入れている。副専攻では、バイオ医薬品の開発に従事できる優れた人材育成を目指しており、実習やゲノム創薬学、薬物送達学を必修科目として開講している。現在は理学部、工学部、農学部、獣医学部の学生が対象だが、26年4月から現代システム

科学域知識情報システム学類が開始されることを踏まえ、AI（人工知能）創薬の人材育成を視野に入れたプログラムも検討しているという。

今月の閲覧本数 **1 本** 登録会員（無料）の方は**月 5 本**まで閲覧できます。

All documents, images and photographs contained in this site belong to JIHO, Inc.
Use of these documents, images and photographs is strictly prohibited.
Copyright (C) JIHO, Inc.

株式会社じほう